

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立永山小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒206-0025 東京都多摩市永山2-8-1
E-mail daihyo-nagayama-sho@city.tama.ed.jp
Website http://schit.net/tama/esnagayama/
児童生徒数 男子 233名 女子 199名 合計 432名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、SDGsの目標のうち、
目標3 すべての人に健康と福祉を
目標5 ジェンダー平等を実現しよう
目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
目標11 住み続けられるまちづくりを
目標15 緑の豊かさを守ろう

に関して学習活動を展開している。

本校のある永山地域は、近隣地域と比較しても著しく高齢者が多い地域だという現状がある。また、本校には特別支援学級があり、給食で交流をしたり、運動会で一緒に演技をしたりしている。そこで、永山地域で生活をしていく子供たちにとって、高齢者や障害のある方など、様々な人と関わり合いながら生きていくためにはどのようなことが大切なのか考える必要があることから、これらの目標を設定した。

また、2020年に東京オリンピックが開催されることから、障がいのある方や高齢者だけでなく、様々な国の方と関わる機会が増えていくことも考えられる。そこで、国際人としての考え方や行動ができる児童の育成も目標としている。しかし、世界に目を向けるだけでなく、自国の文化についても学習し、日本の食文化やそれらを培ってきた環境を守っていく大切さについても学習を展開している。

具体的には、「福祉」「国際理解」「環境」を柱に、①障がい者理解に係わる教育、②高齢者に係る活動、③国際理解に係わる学習、④環境に係わる学習を行った。

① 障がい者理解に係わる教育

第3学年「仲良くなろうわかくさ学級と」

永山小学校の特色でもある特別支援学級「わかくさ学級」の児童について理解を深め、どのようにかかわったら良いか考え、ともにできることを実践する。

第4学年「だれもがかかわり合えるように」

視覚障がいや聴覚障がいのある地域の方との交流を通して、共に生きていくことについて考え、自分にできることを実践しようとする。



点字盤を使った体験活動の様子

第5学年「共に学び、共に生きる」

第3・4学年で学習した、障がい者理解を基に、車いす体験、障がい者スポーツ体験から、障がいのある人たちや介助する人の思いや生活に興味をもち、課題を設定し、調べ学習やインタビューを行うことで、共に生きるために自分にできることを考える。

② 高齢者に係る活動

第6学年「みんなで生きる町」

障がい者理解に関わる教育を基に、地域の高齢化の実態を知ることや高齢者疑似体験から、高齢社会の問題点や福祉の在り方について興味をもち、課題を設定し、調べ学習やインタビューを行うことで、様々な人が暮らす永山地域で自分が地域の一員としてどのようなことができるのか考える。



左：階段歩行体験 右：視力の低下を体験

③ 国際理解に係わる学習

第5学年「米と世界のつながり」

第6学年「世界に目を広げよう」

2020年のオリンピック開催に関心をもつとともに、世界の国々に興味をもち、文化(食文化、スポーツ、芸能など)や特徴を調べたり、国際理解のための取り組みを調べたりすることを通して、将来、社会の一員として自分がどのような取り組みを行っていくか考え、発表する。

④ 環境に係わる学習

第3学年「大豆アラカルト」

第5学年「米と私たちのつながり」

第3学年では大豆を育て、第5学年では米を育てることを通して、私たちの生活に欠かすことのできない大豆や米にまつわる文化などに興味をもち、課題を設定し、調べた事をまとめて発表する。

第4学年「永山エコ大作戦」

社会科におけるゴミ処理の学習を発展させ、なるべくごみを出さない生活の仕方について考え、自分たちにできることを考え、それを発信する。



児童が作成したポスター

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(給食の時間)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none">・オリンピック・パラリンピック学習読本小学校編 ・地域包括支援センターで作成された資料 地域の高齢化が進んできていることについて ・ウェブサイト 「公益社団法人 日本障がい者スポーツ協会」「稲作文化」 「ユニバーサルデザイン」「障がい者スポーツ」などの、児童の課題に合った言葉から検索されたサイト ・パンフレット 『知って安心認知症多摩市認知症ケアパス』など
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、生活科・総合的な学習の時間にユネスコスクールとしての活動を行っている。

総合的な学習の時間の目標は以下のように設定している。

- ①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育成すること
- ③学び方やものの考え方を身に付けること
- ④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- ⑤自己の生き方を考えることができるようにすること

SDGsの17の目標のうち、特に以下の4があてはまる。

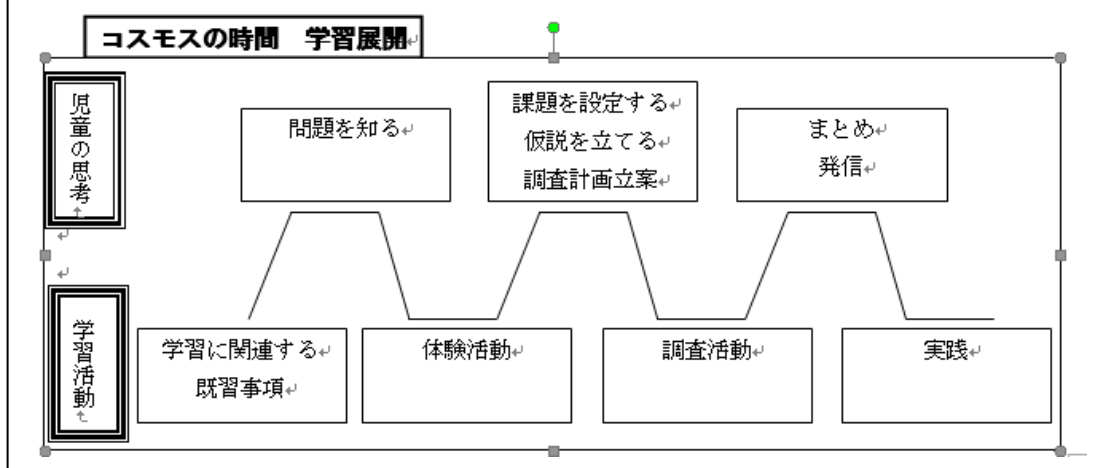
目標3「すべての人に健康と福祉を」

目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

目標11「住み続けられるまちづくりを」

以上の目標の達成に向け、『生活科・総合的な学習の時間 年間指導計画』『ESD カレンダー』を作成し、指導に当たっている。問題解決型の学習を通して達成できるよう、児童の思考と学習活動が交互に行われる学習展開を設定している。



③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

全学年が『生活科・総合的な学習の時間 年間指導計画』『ESD カレンダー』を作成し、組織的・継続的に指導にあっている。
以下に、第6学年の年間指導計画とESDカレンダーを一例として掲載する。

多摩市立永山小学校

平成29年度 第6学年 総合的な学習の時間 年間指導計画 ☆オリンピック・パラリンピック教育

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名「みんなで生きる町」(32時間) ☆						単元名「世界に目を広げよう」(38時間) ☆					
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者施設体験や高齢者へのインタビューから、高齢化社会の問題点や福祉の在り方について考える。 ○地域を調査し、ユニバーサルデザインなどの誰もが安全・安心に暮らせるための工夫を知り、地域の一員として安全・安心に暮らすためにできることを考え、発表することができる。 <p>【原簿の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の少子高齢化社会の現状から、地域の高齢化の事態をゆるぎなく高齢者施設体験(2時間)や高齢者へのインタビューから、高齢化社会の問題点や福祉の在り方について考える。 ○地域を調査し、ユニバーサルデザインなどの誰もが安全・安心に暮らせるための工夫を知り、地域の人たちが安全・安心に暮らすために自分たちができることを考える。 <p>【情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化社会の統計資料や福祉にかかわる資料をインターネットで調べる。 ○高齢者施設体験、祖父と高齢者へのインタビュー。 ○学区の調査、地域の人へのインタビュー。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べた結果から、少子高齢化社会の問題点を見出し、考える。 ○体験やインタビューから、福祉についてまとめる。 ○地域調査の結果から、安全・安心に暮らすために自分たちができることをまとめる。 <p>【まとめ・発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全・安心に暮らすためにできることを考え、5年生へ提案したり、市役所へ発信したりする。 ○安心して暮らせるために、地域活動へ参加する。 <p>【教材・教材時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○祖父と、高齢者へのインタビュー ○多摩市ラフォーテアセンター ○学区の調査 						<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2020年東京オリンピック開催に思いをもつとともに、世界の国々に関心をもち、文化や特産を知るとともに、国際理解を深めることができる。 ○現在日本で行われている国際理解のための取組を調べ、自分たちもこれから社会の一員として発信していこうとする意欲を高めていく。 <p>【原簿の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック参加国から世界の国々に興味をもち、1つの国の文化や特産を調べる。 ○現在日本では国際理解のためにどのような取組がなされているのか調べる。 ○自分が将来、社会の一員としてどのような取組を行っていくか考える。 <p>【情報の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の国々について国書資料、インターネットなどで調べる。 ○国際理解のための取組についてインターネットで調べる。 <p>【整理・分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べた国の文化や特産をまとめる。 ○世界の国々の文化や特産から日本との違いに気付き、未だしたときの関連点に着目する。 ○国際理解のための取組をまとめる。 ○将来どのような取組をしていくべきか考える。 <p>【まとめ・発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他人で調べた国の特産についてまとめ、発表する。 ○将来、社会の一員としてどのような取組を行っていくか考え、発表する。 <p>【教材・教材時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国語の学びの工夫 					

6年 ESDカレンダー

福祉 国際理解 環境

【1年間を通して児童に身に付けさせたい力・態度について】
社会体験や、国際理解についての探究活動に取り組むことにより、他者への思いやりや、自ら問題を解決し、総合的に考える力の育成を目指す。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語										自然に学ぶ暮らし(理)		
算数												
社会					江戸の文化(環境)					世界の未来と日本の役割(国際理解)		
理科	体のつくりとはたらき(環境)		生物とその環境(環境)								生物と地球の環境(環境)	
総合的な学習の時間	みんなで生きる町						世界に目を広げよう(国際理解)					
特別活動		クリーン大作戦(環境)								ユニセフ		
道徳			オトちゃんルール	わたしのネパール						山を緑に(環境)	マザー・テレサ	
音楽												
家庭			工夫しよう良やかな生活(環境)								工夫しよう良やかな生活(環境)	
園工												
体育												
外国語	いろいろな文字があることを知ろう(国際理解)							行ってみよう国を紹介しよう(国際理解)				

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

来年度の生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する際に、各学年が一年間活動したことを振り返り、作成するようにしている。
成果としては、地域の人材のより良い活用方法や、より適した学習時期などを明らかにしていくことができた。また、「福祉」を第3学年から第6学年まで継続して指導してきているため、児童が「地域のために自分たちができることはないか。」と考えることができるようになってきている。
課題としては、より地域に根差した学習が展開できるよう、「福祉」を中心とした学習計画を作成していく必要があることが明らかになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

発信方法…「多摩市こども未来会議」の資料作成
発信内容…実践事例『第5学年「共に学び共に生きる」』
得られた効果…指導内容や成果・課題をまとめたことで、同じテーマで学習している学校へ情報提供することができた。また、校内の教員も ESD や総合的な学習の時間の取り組みについて理解を深めることができた。さらに、「多摩市こども未来会議」で話し合われた内容を市内の学校が共有し「自分事」として捉え、各校の特色を生かして実践していくことで、2050年の大人づくりを市全体で行うことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

- ・第3学年… 地域の公共施設（商店街・児童館・市役所・図書館等）、本校特別支援学級「わかくさ学級」
- ・第4学年… 地域の公共施設（児童館・学童・図書館・公民館・保育園等）、多摩ボランティア永山分室、多摩市聴覚障がい者情報活動センター、点字サークル「トータス」
- ・第5学年… 農協の方、多摩市国際交流センター、東京都人権啓発センター
- ・第6学年… 地域包括支援センター、地域の高齢者の方々、多摩ボランティアセンター

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

多摩市内のユネスコスクールが集まることも未来会議において、各校の取組を発表し合い、これからの多摩市について考え、まとめていく活動を通して子供同士の交流を深めてきた。ユネスコスクールの全国大会に参加し、各校の実践に触れることができた。他地域のユネスコスクールとの交流までは発展しなかったが、まずは近くのユネスコスクールである多摩市内の学校との交流を深めていきたい。今後、学習したことを伝え合ったり、地域人材の共有をしたりすることをさらに推進していく。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

第6学年「みんなで生きる町」の学習を、以下の児童の思考と学習の流れを踏まえて行った。

問題を知る
日本の人口の変化などを調べ、高齢化を知る。

課題を設定する
仮説を立てる
調査の計画立案
【誰もが住みやすい町とはどんな町なのだろうか？】
〈高低差をなくせば住みやすい町になるに違いない〉

まとめ
発信
市役所への提言
安全防災マップの作成
5年生への発表

体験活動
5年生
車いす体験
・高齢者疑似体験
・地域の高齢化を調査する
・学区域の調査探索
多摩ボランティアセンター

調査活動
・高齢者へのインタビュー
・街頭アンケート
・高齢者の方を招いてのグループディスカッション
祖父母・地域の高齢者・永山駅

実践
・高齢者への挨拶
・地域のゴミ拾い
・地域活動への参加
・防災への協力

学習の終末の「実践」では、地域防災を本校で行い、児童と高齢者とが共に活動することができた。児童は進んで活動に取り組み、「自分にできること」をより深く考え、ふりかえることができた。
児童 A「地域のお年寄りや障害のある方が安心して暮らせる町づくりのために、もっと地域の行事に参加していきたい。」
児童 B「重たいゴミ出しが大変そうだったから、ゴミ出しに協力したい。」

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

「福祉」を中心に人との関わりに特化した学習を展開するようにしていきたい。

小学校のまとめである6年生では、すでに関わりのできた地域の方との学習機会を増やすとともに、児童が進んで地域に出て活動できるような学習に取り組む。

例 民生委員と協力した子供民生委員活動

地域包括支援センターと協力した高齢者見守り、認知症サポーター

青少年連絡協議会と協力した子供の健全育成活動

児童館と協力した子供家庭交流活動

市役所防災安全課や地域防災連絡協議会と協力した防災訓練 等

地域に出て活動すること、地域の人と関わることを通して、町の未来、誰もが住みやすい町について考えていく。また、自らが地域の一員として、積極的に関わって生活しようとする態度を養っていく。